

C-2 石臼できな粉を作る

■「一人一人にそれぞれのフツウ」

■自分で感じ・考え・選び・決める・行動する

■視覚的・具体的・肯定的なコミュニケーション

取組み	①健康・生活	②運動・感覚	③認知・行動	④言語・コミュニケーション	⑤人間関係・社会性	家族支援	地域支援
石臼との出会い	■穀物を粉にするには？というクイズに答え、 ■石臼が近年まで使われていた歴史を知る。	■石臼を視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚を使って感じる。	■「教科書で見たことある！」など過去に取得した情報を照合する。 ■石臼の形、色、音、大きさや仕組みを知る。	■感じたこと「大きいな」「重たい」「冷たい」など言葉にして相手に伝える。	■自分の意見と他社の意見の違いを受け止め、意見交換を行う。		
大豆との出会い	■お豆腐・お味噌・納豆・きな粉の原料は？大豆と枝豆は同じ？といったクイズに答え、 ■生活の中で大豆が広く用いられていることを知る。	■大豆の大きさ、香り、手触りを感じる。		■感じたことを言葉にして相手に伝える。	■自分の意見と他社の意見の違いを受け止め、意見交換を行う。		
石臼以外に必要な器具を準備する			■きな粉ができた後を想像し、どのような器具が必要か考える。	■必要な器具のリストを作る。 ■必要な器具を準備するため、スタッフに頼むか、事業所CからAに行くためにスタッフについてきてもらうなど他者に協力を要請する。			
大豆を「もの入れ」に入れる		■大豆を掴むことで大きさ、感触を感じる。	■視覚、触覚で感じた大豆の大きさを感じたうえで、「もの入れ」の穴に入れる。	■複数人で取り組む場合、「大豆が「もの入れ」にいっぱいになっている」「まだ入る」など状況を相手に伝える。 ■みんなからの助言に耳を傾け、動きを調整する。			
石臼を回す		■回すための姿勢の保持。 ■石臼を回すとき、重さや豆が潰れていく過程を感じる。		■石臼を抑えてもらう必要があるときは他者に頼む。 ■困ったら助けを求め、困っていたら助ける。	■他の子は一人で回せるが、自分の力では回せない場合、自分の苦手なことを知り、自己理解となる。止める、他者に頼むなどの行動をとる。		
出来たきな粉を確認する		■視覚、触覚、嗅覚などを活用して、細かく挽かれたきな粉を確認する。	■大豆が挽かれてきな粉になる過程を知る。		■きな粉を手で何度も触り、感触遊びをしたいが「食べ物を何度も手で触らない」というルールを学び、触りたい情動を調節する。		

石臼の周りの溝にあるきな粉を集める		■石臼の周りに集まった360度に渡る溝から刷毛を使ってきな粉を集めるために、姿勢を変える。■きな粉が溝からはみ出ないスピードで刷毛を動かす。		■きな粉が溝から落ちてしまいそうなときに、他者に助けを求める。■助けを求められたら助ける。		
石臼のを回し終え、他の子を誘う			■一人でどのぐらいの量の大豆を使うかを考え、残りの大豆の量で何人の子が回せるか考える。	■石臼を回して感じたこと「面白いよ」「けど、回すの結構しんどいから、助けてほしいねん。」など感動を言葉にして他者に伝え、■他の子を誘う。		
餅にまがして食べる	■餅を食べる際に誤嚥・窒息を防ぐため、十分に咀嚼し、ゆっくり嚥下するよう注意する。	■嗅覚で、きな粉の香りを感じる。	■大豆からきな粉ができ、過去に食べたことのあるきな粉の味や香りと比べる。	■味の感想を言葉にして他者に伝える。	■きな粉を作った子は、他者から「美味しい」「ありがとう」などの感想を言ってもらう。	
片付け	■食べた後の皿やフォークを片付ける。	■皿やフォークなどを落とさないように保持しながら、片付ける場所まで移動する。				■帰宅後、感想を伝えることで、感情に寄り添うことで、アタッチメントの形成が行われる。